

基本理念

私たちは、患者さんの人権を尊重し、地域に必要な基幹的中心的な医療を担当すると共に、さらに高次の医療に対応できるよう努力します。

2018 Spring Vol.053

編集：広報委員会・広報課
 印刷：有限会社 アクト

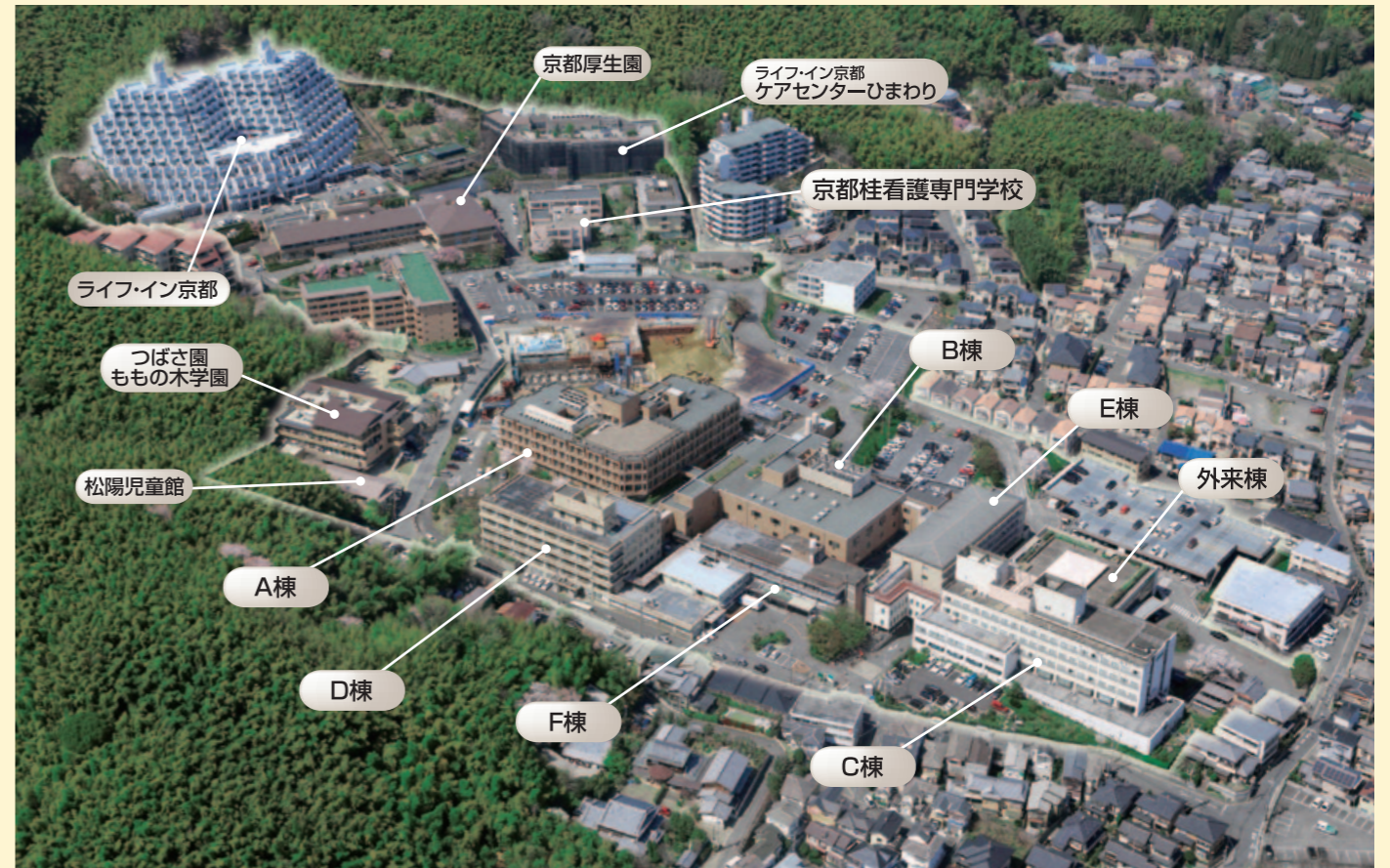
〒615-8256 京都市西京区山田平尾町17
 TEL.075-391-5811(代)

松尾神社（撮影 桐山豊三郎）



Index

ホスピタルインフォメーション	2
平成30年度を迎えて	
知トク情報コーナー	3
薬剤科より 外来でこんなお薬が処方されたら…	
TQMシンポジウム報告	4
ナースの広場	6
がん化学療法看護認定看護師としての役割	
連携医ネットワーク	6
当院の医師・職員紹介	7



許可病床数

●585床（一般525床：結核60床）

診療科目

- 一般内科 ●血液内科 ●糖尿病・内分泌内科
- 腎臓内科 ●膠原病・リウマチ科 ●化学療法内科
- 心臓血管センター（心臓血管内科・心臓血管外科）
- 消化器センター（消化器内科・外科） ●乳腺科
- 呼吸器センター（呼吸器内科・呼吸器外科）
- 脳卒中センター（脳神経内科・脳神経外科）
- 整形外科 ●形成外科 ●泌尿器科 ●産婦人科 ●眼科
- 耳鼻咽喉科 ●皮膚科 ●小児科 ●緩和ケア科
- 精神科 ●リハビリテーション科
- ペインクリニック科 ●放射線科 ●麻酔科 ●救急科
- 血液浄化センター ●健康管理センター
- 京都桂臨床医学研究所（臨床試験センター） ●保育所

併設施設

- 京都桂看護専門学校（全日制3年課程）
- 訪問看護ステーション「桂」

関連施設

- 西陣病院 ●にしがも透析クリニック
- 京都厚生園 ●京都桂川園 ●にしがも舟山庵
- 北野保育園 ●二条保育園 ●昭和保育園
- つばさ園 ●ももの木学園 ●松陽児童館
- ライフ・イン京都



交通のご案内

- ▶市バス
 73系統（京都駅～洛西バスターミナル）
 29系統（四條烏丸～洛西バスターミナル）
 69系統（二条駅西口～阪急桂駅東口）
 それぞれ「千代原口」下車、徒歩約10分
- ▶京阪京都交通バス
 21、27系統（京都駅～桂坂中央）
 「千代原口」下車、徒歩約10分
- ▶阪急電鉄
 京都線「桂駅」下車
 （西口）西へ約1.7km
- ▶病院専用送迎バス（約15分）
 「阪急桂駅」及び「JR桂川駅」からは送迎バスを無料でご利用いただけます。
- ▶JR桂川駅送迎バスのりば
 阪急桂駅西口の送迎バスのりばは、上記地図を参照してください。

薬剤科より

外来でこんなお薬が処方されたら…

薬剤科 上田 真弥



「ハイリスク薬」とは「使用方を誤ると身体に被害をもたらすお薬」のことです。そのため、決められた飲み方を守ることがとても重要で、飲み方を誤ると副作用が出やすくなり、注意が必要となります。

ハイリスク薬には抗がん薬、血栓症のお薬または糖尿病のお薬などがそれに当たります。入院中は医師や薬剤師にいつでも相談することができますが、外来でハイリスク薬を処方された時も、注意事項や副作用の対策などの詳しい説明を聞くこと安心してお薬を飲むことができます。ハイリスク薬について外来で患者さんに説明を行っています。

ハイリスク薬とは？



関節リウマチのお薬であるメトトレキサートはハイリスク薬の一つとして知られています。メトトレキサートは一週間に一日もしくは二日間だけ飲むお薬です。また、副作用として、間質性肺炎や免疫力の低下などがあります。

当院では、外来でメトトレキサートを処方された患者さんに、初回と次回受診時の二回、薬剤師から注意事項や副作用の詳しい説明を行っています。次回受診時には、お薬を飲み間違えていないか、副作用は出ていないかなどといった聞き取りも行っています。また、「葉酸」という栄養素を含むサプリメントを摂っていないか必ず確認しています。「葉酸」はメトトレキサートの効果を弱めることがあるためです。しかし、場合によっては、副作用予防として葉酸を服用していただくこともあり、安全に治療を受けていただけるように説明しています。

メトトレキサート外来

その他のお薬についても外来で説明を行っています

当院では、メトトレキサート以外のお薬についても、外来で患者さんに説明を行っています。代表的なものとして、抗がん薬や血栓症のお薬であるワーファリンなどがあります。また、糖尿病の患者さんに透析予防についての説明や妊娠中の糖尿病についても説明を行っています。

今回例に挙げたお薬は一部であり、その他にも様々なハイリスク薬があります。これらのお薬以外についても、副作用について不安があったり、疑問に思うことがあればいつでも薬剤師にご相談下さい。



ホスピタルインフォメーション

京都桂病院は昨年11月に創立80周年を迎えました。本院は当初、結核療養所松尾病院として創設されています。その当時は結核に対する抗菌薬も存在せず大自然療法として精神・大気・安静・栄養に着目した治療を行ってまいりました。その後昭和39年に総合病院・京都桂病院となりました。設立当初より地域の方々にはいろいろご支援いただいたことと思いますが、その後地域と共に規模を拡大しました。現在では呼吸器センター、消化器センター、心臓血管センターを有し、また昨年11月に脳卒中センターを設立しました。もちろんそれ以外の各科も質の高い医療の提供を目標としております。本院は高度

急性期・急性期の病院としての医療を提供しておりますが、さらに機能の異なる病院や診療所と協働し、自院の役割を果たすことを通して、地域包括ケア体制の確立にも寄与したいと考えております。

さて今年度、より精度の高い鏡視下手術を補助する最新の手術支援ロボット「**ダヴィンチXi**」を導入することいたしました。手術支援ロボットに対して本年度より前立腺や腎の泌尿器疾患だけでなく肺がん・胃がん・大腸がんなどの外科系疾患・一部の産婦人科疾患などに保険の適応が拡大されました。低侵襲手術は患者さんにとって負担が少なく今後の高齢化社会においてますます重要になると考えられ

ます。今回導入するダヴィンチXiは泌尿器疾患以外の外科系疾患にも対応できる最新の機器です。本院はそれら最新医療も進めてゆきたいと考えております。

本年度の行動方針は「**地域から信頼される救急**」といたしました。本院が主として医療を提供している地域は西京区を中心に右京区、乙訓地区（向日市・長岡京市・大山崎町）、亀岡市などとなります。本院は地域における高度急性期・急性期を担当しますが、救急には今後さらに力を入れてゆきたいと考えております。2017年は救急車の搬入件数が3,500台となりました。地域の方が心筋梗塞などの循環器の疾患、脳卒中などの脳神経の疾患、

吐血・下血などの消化器の疾患、呼吸困難や喀血などの呼吸器の疾患、その他、急病になられた時に頼りになる病院を目指してゆきたいと考えております。また、救急には社会の安全保障の側面があります。中には生活困窮者や医療・介護資源にうまくアクセスできていない方もいらっしゃると思います。そのような方がいらっしゃいましたら是非福祉相談室に繋ぎ社会福祉法人としての役割も果たしてゆきたいと考えております。また本院の救急機能を充実するために現在のF棟を建て替えER機能を充実させICU、SCU、HCUなども整備してゆく予定としております。本年度もどうぞよろしくお願いたします。

平成30年度を迎えて



院長 若園 吉裕



2018年
3月

TQM (Total Quality Management)

シンポジウム報告

TQMセンター 出森 智子

チーム ER戦隊トリアージャー



銅賞
おっと!ヤバイゼ!
緊急出動!!
オットット!トリアージ!
「休日・夜間の救急受診の患者の
対応を改善しよう」



休日・夜間の時間が受診の際にいかに速やかに受付事務—看護師—医師—検査が連携して対応するか、看護師のトリアージの知識と技術の質向上に向けた取り組みを行いました。休日夜間に受診される患者さんの未知の不安に対して、関わる職員が一丸となって安全で安心できる対応を心がけるべく行動実践されてきました。

チーム Team Kidny Kidney5 Jin(腎)Jin(尿)人(人々) SeasonIII



銀賞
腎疾患患者の教育体制の
構築とチームサポート
～教育入院・集団教室・PEW対策・
地域連携・チーム医療～



慢性腎臓病 (CKD: Chronic Kidney Disease)の進行を抑制し予防的介入を積極的に医師が中心に活動を開始されました。当初から3年計画で進められ、初年度は院長特別賞で背中を押され、3年間の成果発表が行われました。「よく働き、よく学び、よくコミュニケーションをとる!!」をチームスローガンとして教育入院の質向上、集団指導では、患者さん、地域の人々、京都府立桂高校の学生さんと意見交換し、地域の方々への市民講座の計画と実践と今なお、進化の一途をたどっています。

院長
特別賞

チーム Team No! 梗塞

NO ANGIO, NO LIFE!
「迅速かつ安全な脳アンギオ検査・治療を目指して」

2017年4月から脳神経外科が新体制でスタートしました。それに伴い脳アンギオ専用血管造影装置が導入され、新しく脳アンギオチームが編成されました。とは言え、365日24時間受け入れるためにチームは日々鍛錬しました。血管内治療において、発症—再灌流時間 (onset to reperfusion time; ORT)、来院—治療開始 (穿刺) 時間 (door to puncture time; D2P) が短いほど転帰良好例が増加することが知られ、近年、D2P ≤ 120分などの目標時間枠が設定されていると言われる中、Door to Puncture Time 60分以内を目標に意識統一にむけた脳梗塞緊急フローチャート作成、タイムテーブル記入に取り組みました。カテーテルディスプレイ器具のキット化、クリアチニン迅速キット、放射線技師の対応要員の増員、1年間で多くの対策実現が行われました。



このTQM活動は「組織と個人の調和」を重要視して関係する職員が障壁や上下関係なく、「あるべき姿」を目標に「楽しんで」医療の質向上に向けた取り組みを行っています。遊び心=楽しみ=患者さんの笑顔が基本ベースにある組織論の誇るべき実践の取り組みが現在進行形です。今回書面枠の関係で紹介できなかったチーム活動が過去100チームあります。この活動は現在、下へ下へと根をはり、組織に定着し時に花を咲かせています。

はじめに、当院におけるTQM (Total Quality Management) はどのようなことかをご説明します。これまで全産業で共通して考えられてきた、質を中心とした運営を医療界に適用して医療の質向上を目指しています。

TQMを推進する上で必要な視点は、●患者さんの視点 ●業務プロセスの視点 ●学習と成長の視点 ●財務の視点のバランスを均衡に保つことが重要です。当院では、2010年にTQMセンターを院内部署として新設し、専従職員2名と兼任職員20名で質改善活動に取り組んでいます。

今回、質改善活動のうちTQM活動についてご紹介します。当院では、職員個々が「病院のあるべき姿」に目覚めたとき同志に声掛けして活動メンバーを構成し、活動を開始します。この活動は、病院が全面的に支援します。活動の成果は、年度末にTQMシンポジウムとして発表します。2018年3月で11回目を迎えました。

これら活動には、病院部課(科) 長会から賞金が授与され、院長特別賞として賞金が授与されます。活動の重要な視点は、職員にとって、患者にとって Win-Winであることです。

では、2018年3月に受賞したチームの活動を紹介します。



金賞

チーム みんな(海)の声が聴きたくて 【心臓カテーテル室】
みんながみんな患者さんにとって英雄だ
「身内に勧めたくなるカテーテル検査・治療を目指して」



心臓カテーテル検査・治療はこれまで約42,000件行っています。日頃から、患者さんやそのご家族から不安や疑問を耳にすることが多かったことを機会に、2年間かけて検査室の環境改善、患者指導ビデオ作成、リラクゼーション、パンフレット、プライバシー保護のための検査着について医師を中心に、関係するメディカルスタッフが結集して活動を行いました。「身内に勧めたくなる」そんな検査治療体制をLet's enjoyしながら、実現してきました。

